

2025年10月

県内企業の景況意識調査

(第194回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2025年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

* 2025年 10～12月期〈Ⅳ期〉の見通し

若干の改善も総じて弱い

今期（2025年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、前期比0.7ポイント上昇の▲16.0となった。業種別のBSIは『建設業』『製造業』の2業種で改善、『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の3業種で悪化、『金融・不動産業』は前期比不変であった。

建設業がけん引し全体では若干改善した。ただし、同業種は大幅なマイナス水準となった前期から「変わらない」との回答が多く、依然として厳しい状況にある。

来期（2025年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、今期比5.5ポイント上昇の▲10.5となる見通し。業種別のBSIは『卸・小売業』『サービス業』の2業種で改善、『建設業』『製造業』『運輸業』の3業種で悪化、『金融・不動産業』は今期比不変の見通しである。

小売業において売上高、収益の回復が見込まれており、全体の業況判断BSIも改善する見通し。

* 2025年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

製造業……………3期ぶりの改善

卸・小売業……………卸売業、小売業ともに悪化

建設業……………2期ぶりの改善

サービス業……………4期連続の悪化

若干の改善も総じて弱い

◎業況判断

【今期】(2025年7~9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : ▲16.0 (前期比+ 0.7㊦)

<内訳>

- ・よくなった 6.2% (前期比+ 0.4㊦)
- ・悪くなった 22.2% (前期比▲ 0.3㊦)
- ・変わらない 71.6% (前期比▲ 0.1㊦)

<業種別>

- ・前期比改善 : 2業種 (『建設業』『製造業』)
- ・前期比悪化 : 3業種 (『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』)
- ・前期比不変 : 1業種 (『金融・不動産業』)

今期の業況判断BSIは、建設業がけん引し全体では若干改善した。ただし、同業種は大幅なマイナス水準となった前期から「変わらない」との回答が多く、依然として厳しい状況にある。

【来期】(2025年10~12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI : ▲10.5 (今期比+ 5.5㊦)

<内訳>

- ・よくなる 11.7% (今期比+ 5.5㊦)
- ・悪くなる 22.2% (今期比± 0.0㊦)
- ・変わらない 66.0% (今期比▲ 5.6㊦)

<業種別>

- ・今期比改善 : 2業種 (『卸・小売業』『サービス業』)
- ・今期比悪化 : 3業種 (『建設業』『製造業』『運輸業』)
- ・今期比不変 : 1業種 (『金融・不動産業』)

来期については、小売業において売上高、収益の回復が見込まれており、全体の業況判断BSIも改善する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲ 4.3 (前期比+ 7.3㊦)

4業種で改善

収益BSI : ▲15.5 (前期比+ 0.1㊦)

3業種で改善

【来期】

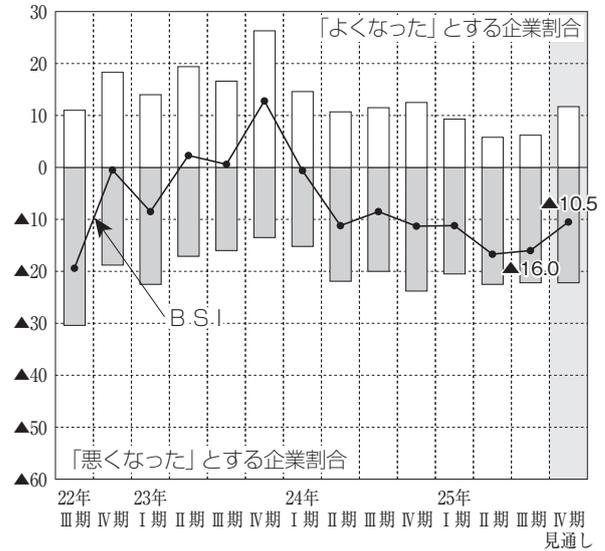
売上高BSI : + 2.4 (今期比+ 6.7㊦)

5業種で改善見通し

収益BSI : ▲ 6.9 (今期比+ 8.6㊦)

4業種で改善見通し

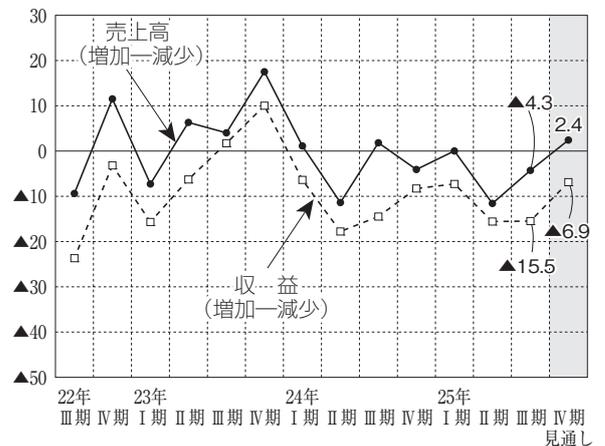
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2025年 Ⅰ期	2025年 Ⅱ期	2025年 Ⅲ期	2025年 Ⅳ期見通し
建設業	▲10.0	▲22.7	0.0	▲ 4.7
製造業	▲14.0	▲16.9	▲15.5	▲22.5
卸・小売業	▲21.0	▲18.6	▲27.8	▲ 8.3
金融・不動産業	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 9.1	0.0	▲ 7.7	▲15.4
サービス業	3.7	▲19.3	▲20.7	6.9
全 産 業	▲11.2	▲16.7	▲16.0	▲10.5

売上高と収益 (B S I)



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲10.6 (前期比+ 4.0%)
5業種で上昇

雇用者数の現状 B S I : ▲41.0 (前期比▲ 3.8%)
2業種で低下

【来期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 1.2 (今期比+ 9.4%)

◎経営上の問題点

- 1位: 「売上不振」(26.9%)
- 2位: 「原材料仕入価格高騰」(25.6%)
- 3位: 「人手不足」(18.6%)
- 4位: 「人材不足」(9.0%)

業種別にみると、「売上不振」と回答した割合は、『製造業』が41.1%と最も高い。「原材料仕入価格高騰」は『金融・不動産業』で50.0%と特に高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合: 44.4% (前期比▲ 1.8%)
2業種で低下

<投資目的>

- 1位: 「補修・更新」(66.4%)
- 2位: 「生産能力の拡大・売上増加」(15.3%)
- 3位: 「合理化・省力化」(9.7%)

【来期】

実施予定企業の割合: 39.5% (今期比▲ 4.9%)
5業種で低下見通し

<投資目的>

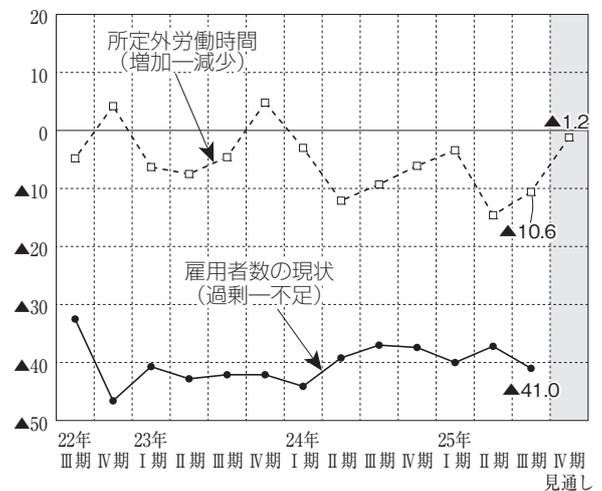
- 1位: 「補修・更新」(67.2%)
- 2位: 「生産能力の拡大・売上増加」(15.6%)
- 3位: 「合理化・省力化」(12.5%)

◎「米国の関税政策の影響」について

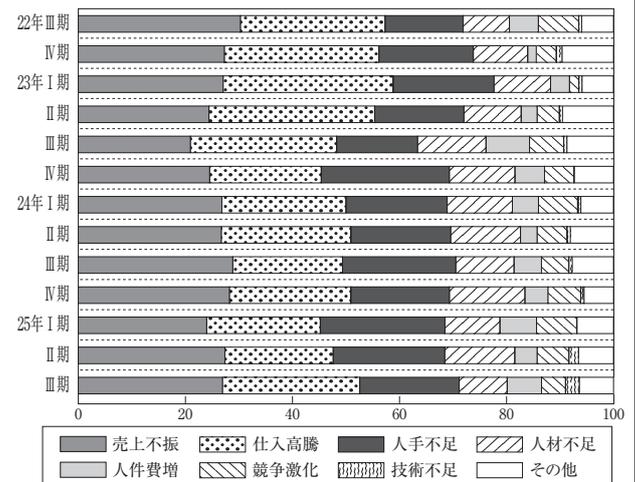
今回の調査において、「米国の関税政策の影響」について尋ねたところ、「まだわからない」が38.3%、「ほぼ影響ない」が33.3%、「ややマイナスの影響がある」が19.1%、「ややプラスの影響がある」が3.7%、「大いにマイナスの影響がある」が3.1%、「大いにプラスの影響がある」が0.6%となった。

業種別にみると「まだわからない」と回答した業種が4業種と最も多かった一方、『建設業』『サービス業』は「ほぼ影響ない」の回答が最も多かった。

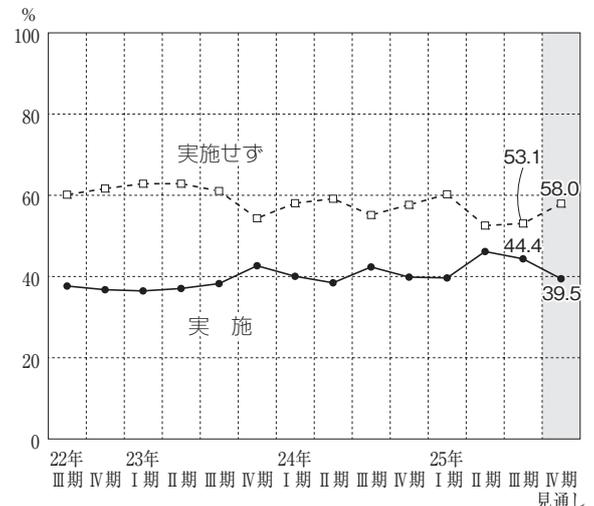
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



3 期ぶりの改善

◎業況判断

【今期】(2025年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断 B S I : ▲15.5 (前期比+ 1.4㊦)

<内訳>

- ・よくなった 5.2% (前期比▲ 1.6㊦)
- ・悪くなった 20.7% (前期比▲ 3.0㊦)
- ・変わらない 74.1% (前期比+ 4.6㊦)

<業種別>

- ・前期比改善: 3業種(「化学・石油」「鉄・非鉄金属」「印刷・出版」)
- ・前期比悪化: 4業種(「機械」「食料品」「木材・家具」「その他」)
- ・前期比不変: 1業種(「窯業・土石」)

住宅着工件数が減少したことにより、「木材・家具」が悪化したものの、受注増加により操業率が上昇した「化学・石油」などの業種が改善し、全体の業況判断 BSI も改善した。

【来期】(2025年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断 B S I : ▲22.5 (今期比▲ 7.0㊦)

<内訳>

- ・よくなる 10.3% (今期比+ 5.1㊦)
- ・悪くなる 32.8% (今期比+ 12.1㊦)
- ・変わらない 56.9% (今期比▲ 17.2㊦)

<業種別>

- ・今期比改善: 0業種
- ・今期比悪化: 4業種(「化学・石油」「機械」「食料品」「その他」)
- ・今期比不変: 4業種(「鉄・非鉄金属」「木材・家具」「印刷・出版」「窯業・土石」)

原材料の価格上昇などにより「食料品」が悪化する見込みであり、全体の業況判断 BSI も悪化する見込み。なお、来期の改善を見込む業種がなかったのは、リーマンショックの影響が残る、2009年10～12月期調査以来、約16年ぶりである。

◎売上高と収益

【今期】

売上高 B S I : ▲ 8.7 (前期比▲ 0.2㊦)

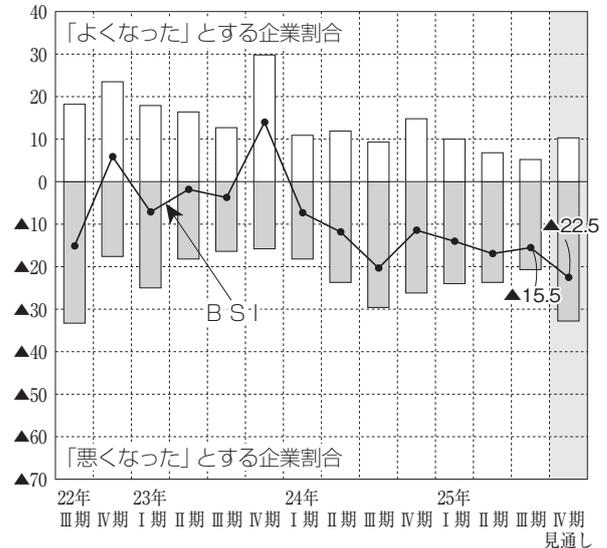
収益 B S I : ▲24.1 (前期比▲ 5.4㊦)

【来期】

売上高 B S I : ▲ 3.5 (今期比+ 5.2㊦)

収益 B S I : ▲13.8 (今期比+ 10.3㊦)

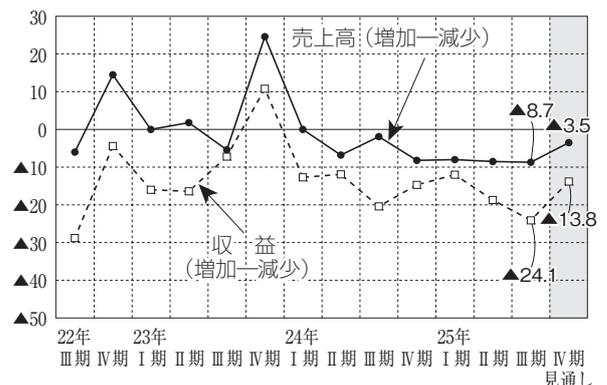
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2025年 Ⅰ期	2025年 Ⅱ期	2025年 Ⅲ期	2025年 Ⅳ期見通し
化学・石油	▲14.3	▲22.2	0.0	▲14.3
鉄・非鉄金属	▲20.0	▲75.0	▲40.0	▲40.0
機 械	▲13.3	▲ 4.7	▲ 5.0	▲10.0
食 料 品	11.1	▲ 7.7	▲ 8.4	▲16.6
木材・家具	▲25.0	▲50.0	▲66.7	▲66.7
印刷・出版	▲20.0	▲50.0	▲40.0	▲40.0
窯業・土石	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	▲66.7	0.0	▲33.3	▲66.7
製 造 業	▲14.0	▲16.9	▲15.5	▲22.5

売上高と収益 (B S I)



卸売業、小売業ともに悪化

◎業況判断

【今期】(2025年7～9月期〈Ⅲ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲25.0(前期比▲9.2㊦)

<内訳>

- ・よくなった 12.5%(前期比+7.2㊦)
- ・悪くなった 37.5%(前期比+16.4㊦)
- ・変わらない 50.0%(前期比▲23.7㊦)

『小売業』

業況判断BSI：▲30.0(前期比▲9.1㊦)

<内訳>

- ・よくなった 10.0%(前期比+1.7㊦)
- ・悪くなった 40.0%(前期比+10.8㊦)
- ・変わらない 50.0%(前期比▲12.5㊦)

卸売業、小売業ともに売上高BSIが改善した一方で、収益BSIは悪化し、業況判断BSIも悪化した。物価高騰に伴う買い控えが要因と考えられる。

【来期】(2025年10～12月期〈Ⅳ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲12.5(今期比+12.5㊦)

『小売業』

業況判断BSI：▲5.0(今期比+25.0㊦)

業況判断BSIは、卸売業、小売業ともに改善の見通し。特に小売業では、売上高、収益がともに回復し、業績改善が見込まれている。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲6.6(前期比+14.4㊦)

収益BSI：▲12.5(前期比▲12.5㊦)

【来期】

売上高BSI：▲18.8(今期比▲12.2㊦)

収益BSI：▲31.2(今期比▲18.7㊦)

◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲20.0(前期比+0.8㊦)

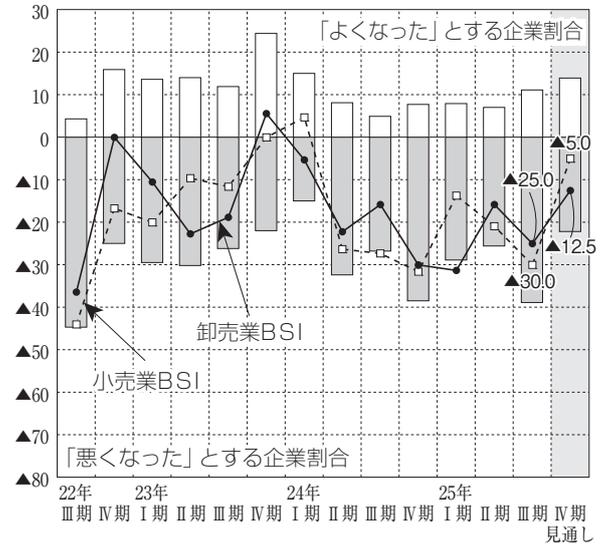
収益BSI：▲35.0(前期比▲14.2㊦)

【来期】

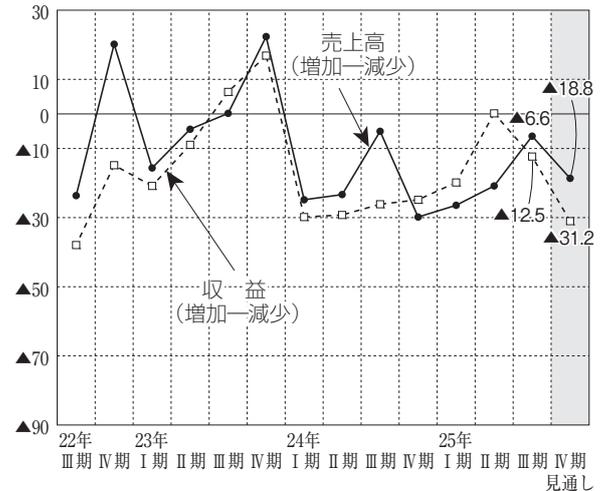
売上高BSI：+5.0(今期比+25.0㊦)

収益BSI：▲5.0(今期比+30.0㊦)

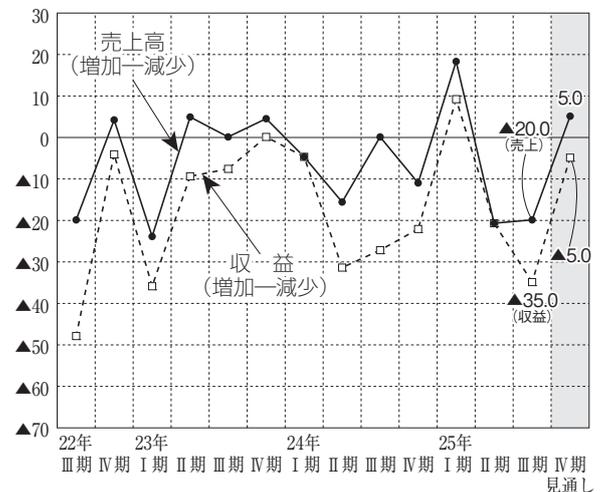
業況判断(BSI)



【卸売業】売上高と収益(BSI)



【小売業】売上高と収益(BSI)



2期ぶりの改善

◎業況判断

【今期】(2025年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：± 0.0 (前期比+22.7㊦)

<内訳>

- ・よくなった 4.8% (前期比+ 4.8㊦)
- ・悪くなった 4.8% (前期比▲17.9㊦)
- ・変わらない 90.5% (前期比+13.2㊦)

業況判断BSIは大幅に改善したものの、大幅なマイナス水準となった前期から「変わらない」とする回答が9割を占めており、依然として厳しい状況が続いている。

【来期】(2025年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：▲ 4.7 (今期比▲ 4.7㊦)

<内訳>

- ・よくなる 4.8% (今期比± 0.0㊦)
- ・悪くなる 9.5% (今期比+ 4.7㊦)
- ・変わらない 85.7% (今期比▲ 4.8㊦)

売上高は改善が見込まれる一方、一部の事業者からは原材料価格の上昇による収益減が予測されており、来期の業況判断BSIは悪化する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：± 0.0 (前期比+22.8㊦)

収益BSI：▲ 4.7 (前期比+22.6㊦)

【来期】

売上高BSI：+14.2 (今期比+14.2㊦)

収益BSI：▲ 9.5 (今期比▲ 4.8㊦)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI：▲ 9.5 (前期比+ 4.2㊦)

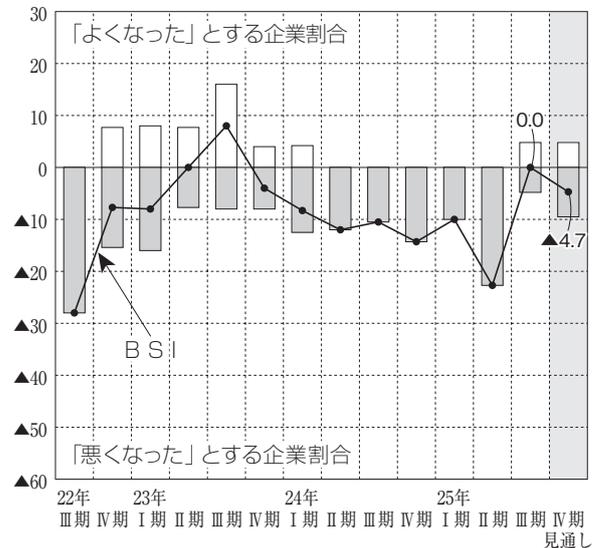
雇用者数の現状BSI：▲85.7 (前期比+ 0.7㊦)

【来期】

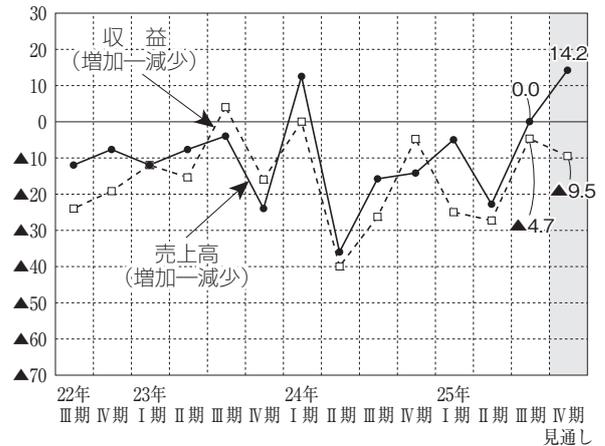
所定外労働時間BSI：▲ 4.8 (今期比+ 4.7㊦)

雇用者数の現状BSIは、4期連続▲80.0以下であり、事業者の人手不足感は強い状況が続いている。

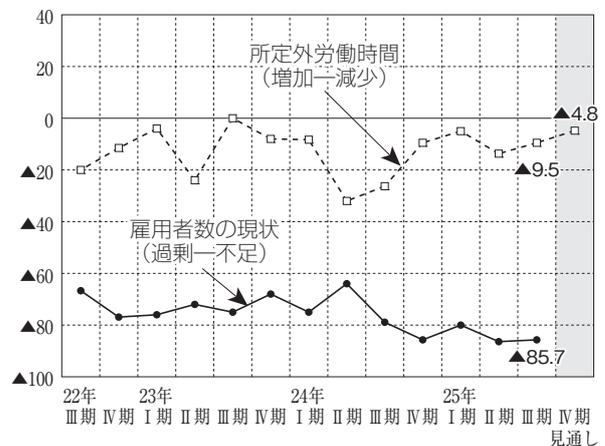
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



4期連続の悪化

◎業況判断

【今期】(2025年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲20.7 (前期比▲1.4ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 3.4% (前期比▲3.1ポイント)
- ・悪くなった 24.1% (前期比▲1.7ポイント)
- ・変わらない 72.4% (前期比+4.7ポイント)

業況判断BSIは前期から悪化し、4期連続の悪化となった。

サービス業のうち観光関連の13社では、「よくなった」と回答した企業はなく、「悪くなった」と回答した企業は前期比11.8ポイント増の38.5%となった。観光関連では、大阪・関西万博へ観光客が流れており、猛暑も相まったことで国内客需要が低下した。

観光関連以外の16社では、「よくなった」と回答した企業は6.3%、「悪くなった」と回答した企業は12.5%だった。

【来期】(2025年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：+6.9 (今期比+27.6ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 17.2% (今期比+13.8ポイント)
- ・悪くなる 10.3% (今期比▲13.8ポイント)
- ・変わらない 72.4% (今期比±0.0ポイント)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲3.6 (前期比+6.1ポイント)

収益BSI：▲10.7 (前期比+8.6ポイント)

【来期】

売上高BSI：+14.3 (今期比+17.9ポイント)

収益BSI：+10.7 (今期比+21.4ポイント)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

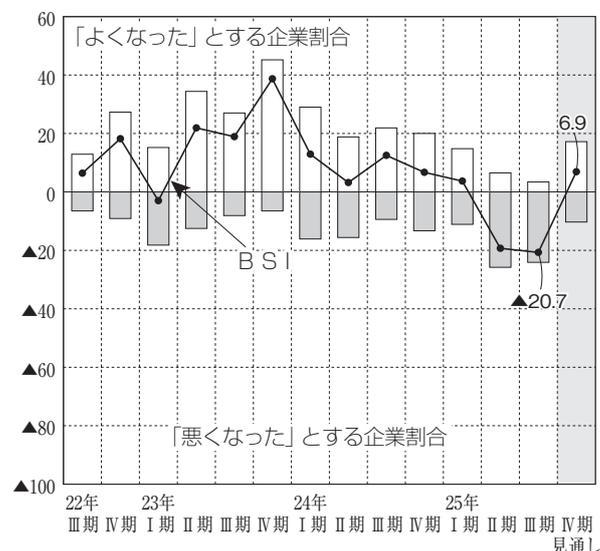
所定外労働時間BSI：▲10.4 (前期比+2.5ポイント)

雇用者数の現状BSI：▲48.3 (前期比▲12.9ポイント)

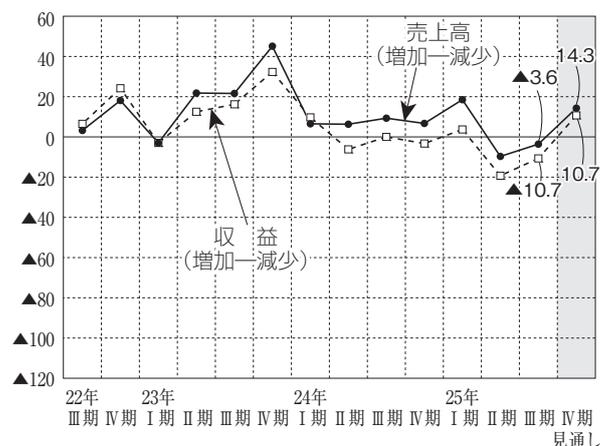
【来期】

所定外労働時間BSI：+17.2 (今期比+27.6ポイント)

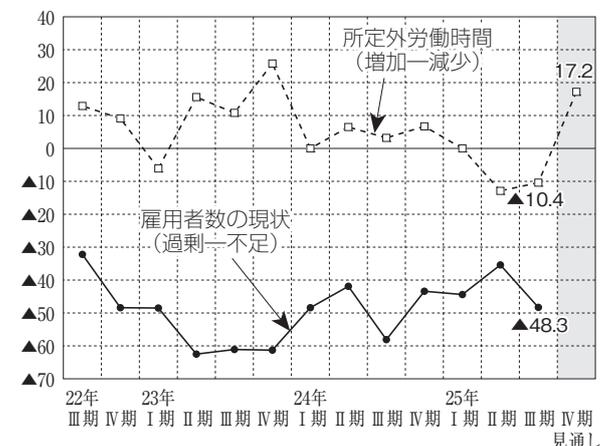
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①[よくなる]+[変わらない]+[悪くなる]=100%とする

②[変わらない]の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2025年8月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業419社

◎回答企業数 162社

・回答率 38.7%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	4.3%
資本金1千万円～1億円未満	65.4%
資本金1億円以上	17.3%
無回答	13.0%